

カイオム・バイオサイエンス (TYO: 4583)

創薬事業が順調に進捗。創薬支援事業も着実増。

◇2023/12期4Q決算サマリー

カイオム・バイオサイエンス（以下、同社）の2023/12期4Q決算は、創薬支援事業が着実に成長、売上高682百万円（前年度比+8%増）となり、営業利益以下各段階の利益において赤字幅がわずかながらも縮小した。

創薬事業における第4四半期の進捗については、自社パイプラインであるCBA-1205において第1相試験前半パートで登録されたメラノーマ患者の腫瘍縮小効果をとまなうSD（安定）評価が継続し30ヶ月を超えて継続投与中である。第1相試験後半パートの遂行のため追加の原薬・治験薬の供給を開始した。

導出したADCT-701はNCI（米国国立がん研究所）が米国での第1相試験に向けたIND申請を完了し、小児の神経内分泌がんを対象とした臨床試験開始にむけた準備を進めている。

前臨床試験段階にあるPCDCの海外企業に対する導出活動は引き続き続いている。また、同じく前臨床試験段階にあるPFKR、PXLRの新規導出活動が開始された。

創薬支援事業の売上高は売上高682百万円となり業績予想を上回り、セグメント利益は399百万円（同+14%増）となった。既存顧客との取引が着実に増加している。なお、2024年2月には、スポット取引を行っていた武田薬品工業と新たに業務委託基本契約を締結しており、今後一層の業績拡大が期待される。

◇2024/12期会社予想と今後の注目点

創薬事業について合理的な業績予想の算定が困難であることから、創薬支援事業の売上高のみ開示されている。これは720百万円（同+6%増）とされている。

なお、最大の注目点は第一相の臨床試験が進んでいるCBA-1205とCBA-1535の治験の進捗、およびこれらとPCDCなどの導出の成否である。近年は研究開発資金の捻出のために新株予約権の行使による株式発行が増えてきたが、導出に成功すれば中長期的な業績期待が高まると同時に、契約一時金・開発マイルストーン収入により単年度黒字になる公算がある。加えて、これが研究開発の原資となるため、新株発行による資金調達に対する依存度が下がる。同社にとって重要な転換点が接近しつつあると言えるため、これらの導出動向に対して従来以上に株式市場の注目が集まるだろう。

4Q決算アップデート

ヘルスケア

2024年4月9日

株価(4/8)

135円

| | |
|----------------|-----------|
| 52週高値/安値 | 174/129円 |
| 1日出来高(3ヶ月) | 726.9千株 |
| 時価総額 | 74億円 |
| 企業価値 | 65億円 |
| PER(24/12予) | -倍 |
| PBR(23/12実) | 6.23倍 |
| 予想配当利回り(23/12) | -% |
| ROE(TTM) | -83.6% |
| 営業利益率(TTM) | -176.6% |
| ベータ(5年間) | 1.1 |
| 発行済株式数 | 52.634百万株 |
| 上市市場 | 東証グロース |

株価パフォーマンス



| % | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 12ヶ月 |
|------|--------|-------|--------|
| 株価 | -8.9% | 18.0% | -18.6% |
| 相対株価 | -12.7% | -0.6% | -42.5% |

注目点

独自の抗体創薬開発でアンメットニーズに応えるバイオベンチャー企業。10数品目のパイプラインを抱え、うち2品目が臨床段階。ファーストインクラスの創薬を目指し、同社独自のADLib/Tribodyの技術に立脚した創薬事業を展開中。

カイオム・バイオサイエンスはOmega Investment Limitedの顧客であり、同社の依頼を受けてレポートを作成しています。詳しくは、最終ページのディスクレーマを参照ください。

| 決算期 | 売上高 (百万円) | 前期比 (%) | 営業利益 (百万円) | 前期比 (%) | 経常利益 (百万円) | 前期比 (%) | 当期利益 (百万円) | 前期比 (%) | EPS (円) |
|--------------|--------------|------------|---------------|------------|---------------|------------|---------------|------------|------------|
| 2019/12 | 447 | 110.3 | -1,401 | - | -1,410 | - | -1,403 | - | -44.61 |
| 2020/12 | 480 | 7.4 | -1,283 | - | -1,291 | - | -1,293 | - | -36.06 |
| 2021/12 | 712 | 48.3 | -1,334 | - | -1,329 | - | -1,479 | - | -36.74 |
| 2022/12 | 630 | -11.5 | -1,258 | - | -1,243 | - | -1,242 | - | -28.26 |
| 2023/12 | 682 | 8.2 | -1,205 | - | -1,217 | - | -1,220 | - | -24.62 |
| 2023/12 (会予) | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

注：同社の業績予想は、創薬事業における合理的な業績予想の算定が困難であるとして、創薬支援事業の数値（売上高720百万円）のみ公表している



導出品

| 開発コード | 標的分子 | 疾患領域 | 創薬研究 | 前臨床試験 | 臨床第1相試験 | 導出先 |
|----------------------------|-------|-------------|------|-------|---------------|-----|
| ADCT-701 (LIV-1205 ADC) | DLK-1 | がん (ADC) | | | (NCT06041516) | |

自社開発品

| 開発コード | 標的分子 | 疾患領域 | 創薬研究 | 前臨床試験 | 臨床第1相試験 | ステータス |
|-------------------------------|-----------------|------|------|-------|------------------|--------|
| ★ CBA-1205 (ADCC enhanced) | DLK-1 | がん | | | (JRCT2080225288) | 第1相試験中 |
| ★★ CBA-1535 (Tribody™) | 5T4×CD3 ×5T4 | がん | | | (JRCT2031210708) | 第1相試験中 |

★ ファーストインクラス
★★ 世界初の創薬モダリティでの臨床入

導出候補品及び創薬プロジェクト

| 開発コード | 標的分子 | 疾患領域 | 創薬研究 | 前臨床試験 | 臨床第1相試験 | ステータス |
|--------------------|-------------------|----------------|------|-------|---------|--------------------|
| ★ PCDC | CDCP1 | がん (ADC) | | | | 導出活動中 |
| PTRY | 5T4×CD3 ×PD-L1 | がん | | | | 臨床入りに向けて データ取得中 |
| BMAA | SEMA3A | 非開示 | | | | 導出活動中 |
| LIV-2008 /2008b | TROP-2 | がん | | | | 導出活動中 |
| New PFKR | CX3CR1 | 自己免疫性 神経疾患等 | | | | 導出活動開始 |
| New PXLRL | CXCL1/2/3/5 | がん | | | | 導出活動開始 |
| 創薬PJ/探索研究 | 非開示 | がん/眼科 etc | | | | — |

Copyright © 2024 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

2024年2月13日時点

出所：2023年12月期第4四半期決算補足資料（2024年2月13日）

◇2023/12期4Q決算実績：創薬支援事業が順調に拡大

2023/12期4Q決算は、創薬支援事業が着実に成長、売上高682百万円（前年度比+8%増）となり、営業利益以下各段階の利益においてその赤字幅が縮小した。

創薬事業の各パイプラインの進捗状況等は上記の図を通り。それぞれのパイプラインは順調に進行しているが、2023/12期4Q中の売上は計上されていない。販管費中の研究開発費は1,052百万円（同84百万円減）、前年度にCBA-1535のCMC関連費用を計上し今期は治験製剤の費用を計上していない分が減少した。その結果、同事業のセグメント損失は、研究開発費に相当する1,052百万円となった。

パイプラインの状況については後述する。

創薬支援事業は、同社の独自の抗体作製手法であるADLib®システムを中心とした、抗体作製技術プラットフォームを活かした抗体作製業務や抗体の親和性向上業務、たんぱく質調製業務を受託し、国内の主要製薬企業における抗体医薬にかかる研究支援を展開するものである。創薬支援事業による安定的な収益の獲得が、創薬事業の研究開発費確保の一助となっている。

同事業の売上高は売上高682百万円となり業績予想を上回り、セグメント利益は399百万円（同+14%増）となった。当事業年度において新たに国内大手製薬企業との委受託包括契約の締結、国内診断薬企業との新たな委受託業務を開始したほか、複数の新規顧客との取引を開始している。また、ADLib®システムを利用した抗体作製にかかる委受託契約として、国立研究開発法人との業務も推進している。なお、2024年2月、スポット取引を行っていた武田薬品工業と、新たに業務委託基本契約を締結している。

BSに関しては、2023年12月末の総資産は1,629百万円（2022年12月末比463百万円減少）、現預金は1,326百万円（2022年12月末1,727百万円）である。新株予約権の行使に伴う株式発行で555百万円調達を行っており、期末の純資産は1,158百万円である。



◇パイプラインの進捗状況：CBA-1205の導出価値最大化に向けて計画を延長

< 自社開発品 >

* **CBA-1205**；ADCC活性増強型 ヒト化抗DLK-1モノクローナル抗体。ファーストインクラス。臨床第1相試験後半パート。臨床第1相試験において、ポジティブな兆候を確認。肝細胞がん患者における複数のPR症例の獲得と導出一時金の最大化を狙う。

CBA-1205は、国立がん研究センターにおいて、固形がんの患者を対象とした臨床第1相試験前半パートを実施。また、後半パートにおいては、肝細胞癌の患者を対象として、試験を行なっている。前半パートでは、既に高い安全性が確認されているが、登録されたメラノーマの患者において腫瘍縮小を伴うSD（安定）評価が続き30ヶ月以上の継続投与が確認され、現在も投与を継続中である。

また、後半パートで登録された肝細胞がん患者1例においてPR（部分奏功：30%以上の腫瘍縮小）を確認している。

本剤の治療薬としてのポテンシャルを検証するため、PR症例と本剤投与の科学的な関連性を解析することを目的とし、治験登録患者の選定基準を厳格化し、並びに治験期間の延長を決定している。これに対応して治験薬の追加製造が完了し4Qに供給を開始している。

臨床第1相試験後半パートの完了は2025年を予定しており、並行して事業提携・導出活動を進めていく。

肝細胞がん患者における複数のPR症例の獲得ができれば導出に弾みがつくと想定される。

* **CBA-1535**；ヒト化抗5T4・抗CD3多重特異性抗体。世界初の創薬モダリティ。臨床第1相試験前半パート、2024年に後半パート入りをうかがう

同社は2022年2月、PMDAに治験計画届を提出、6月末より国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院及び静岡県立静岡県がんセンターの2施設において、臨床第1相試験の投与を開始している。臨床第1相試験前半パートにおいて、固形がん患者を対象に安全性評価及び薬効シグナルの評価を実施。低容量から段階的に投与し、安全に投与できる最大量を求め、初期の薬効シグナルを評価する。

後半パートにおいては、がん免疫療法薬との併用による効率的な薬効評価を行う。前半パートでの薬効シグナルの確認後に、後半パートを開始する計画であり、後半パート開始時期は2024年中である。

CBA-1535はTribody™として世界で初めての臨床試験であり、このコンセプトが確認されれば、多くのがん抗原に対する Tribody™の適用の可能性が広がることとなる。結合する標的や結合する手の数の組み合わせにより、通常の抗体以上の効果や、複数薬剤の併用投与により、1剤の投与のみで複数の薬効が期待されることから、患者のQOLや、医療経済的メリットが期待される。



< 導出品 >

* **ADCT-701** ; 米国で臨床第1相試験に向けたIND申請完了

スイスのADC Therapeutics 社に ADC用途に限定して導出。米国において、米国国立がん研究所 (NCI) が開発主体となり、小児の神経内分泌がんを対象とした臨床第1相試験を行うためにIND (Investigational New Drug) の申請が完了している。

< 導出候補品 >

* **PCDC** ; CDCP1を標的分子とするファーストインクラスのADC、導出活動継続

同社が創製したヒト化抗CDCP1抗体の薬物複合体 (ADC) であり、独自のADC技術を持つ製薬企業でCDCP1を標的分子とする抗体を使いたい企業などをターゲットに導出活動を展開している。現在複数の製薬企業と科学面を中心とした協議を進めている。

CDCP1は、標準治療耐性のがん種を含む幅広い固形がんで発現しており、同剤はファーストインクラスとなる可能性がある。

* **PTRY** ; ヒト化抗5T4・抗CD3・抗PD-L1多重特性抗体。CBA-1535のT cell engagerとしての機能に免疫チェックポイント阻害機能を加えることを期待したTribody™抗体。

初期の動物モデルを用いた評価では強い抗腫瘍効果を示している。イタリアの公的研究機関 Ceinge-Biotechnologie Avanzate と行ったがん免疫療法に関する共同研究の成果を、国際的な学術雑誌である Journal of Experimental & Clinical Cancer Research誌に掲載。同共同研究によって得られた成果についての特許出願を完了している。肺がんモデルでの in vivo 薬効データにおいて、強い腫瘍増殖抑制効果を発揮することが確認されている。

現在研究開発を重点的に進めるとともに早期の導出機会も探っている。

* **PFKR** ; ヒト化抗CX3CR1抗体。GPCRの1種であるCX3CR1を治療標的としており、同社が国立精神・神経医療研究センターと共同研究を進める自己免疫性中枢神経領域の新しい導出候補品。二次進行型多発性硬化症 (SPMS) 等を想定適応疾患とし、特許出願を完了。多発性硬化症の患者数は、国内で7,000人程、世界全体では 300万人以上の患者がいると見込まれている。導出活動を開始している。

* **PXLR** ; ヒト化抗CXCL1/2/3/5抗体。XLR抗体の投与により免疫抑制細胞を減少させ、薬剤耐性を克服およびがんの再発抑制が期待される。固形がん (胃がん、乳がん、卵巣がんなど) を想定している。当社が大阪公立大学と共同研究を進めてきた新たな導出候補品。特許出願は完了。新たに導出活動を開始している。



◇2024/12期通期見通し：創薬事業の売上は計画通り。前期並みの着地を見込む

創薬事業について合理的な業績予想の算定が困難であることから、創薬支援事業の売上高のみ開示されている。これは720百万円（同+6%増）とされている。同事業においては顧客基盤が強化が進んでいることから、引き続き安定的な収益源として研究開発活動を資金面で下支えすることが期待される。

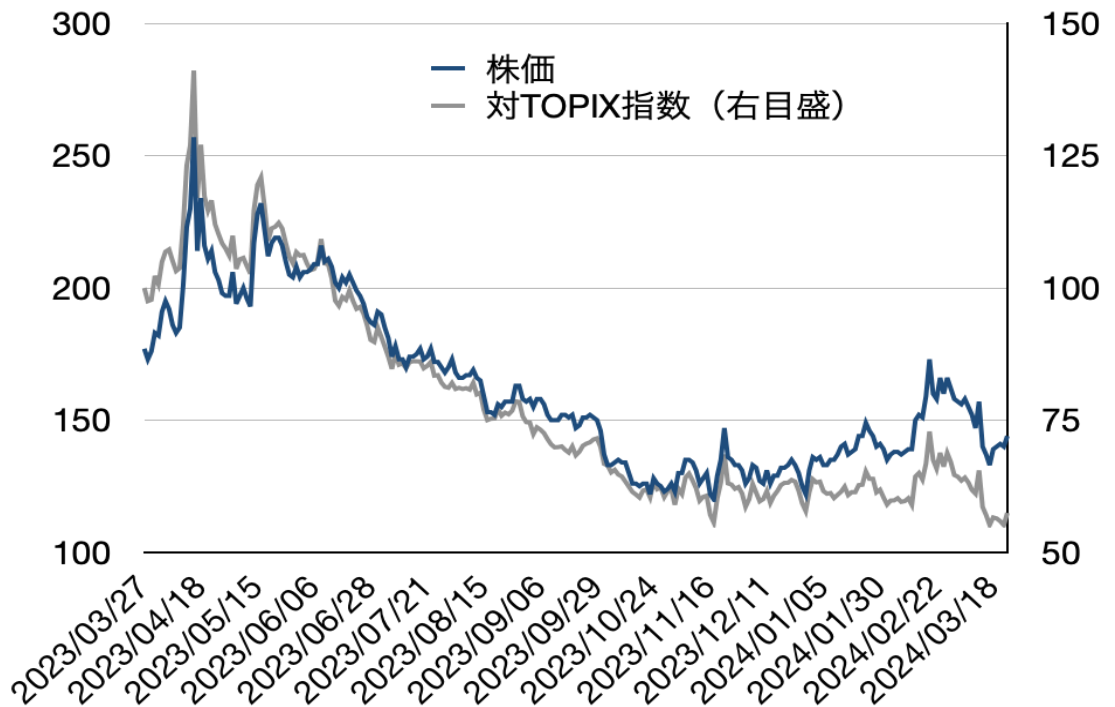
◇株価動向と今後の注目点：CBA-1205、CBA-1535等の臨床試験の進捗とPCDCの導出の行方を注視

同社の過去1年間の株価推移は下記の通りで、総じてじり安に推移してきたものの、やや下げ止まりの兆しが出ている。

じり安に推移してきた要因のひとつは、現在の収益構造にあるとみられる。創薬支援事業が順調に成長しているものそれだけでは研究開発費をフルにカバーするには至っていない。このため、新株予約権を通じた株式発行等によって必要な資金を手当てする状況が続いており、これを投資家が意識してきたと見られる。

しかし、先に見たようにパイプラインの拡充には着実な進捗が見られ、特にCBA-1205では薬効を期待できそうな事例が出てきている点は注目に値する。CBA-1205およびCBA-1535は2025年中に臨床第1相試験後期パートを終了する予定であることを踏まえると、日程的に見て、投資家が導出によるアップサイドポテンシャルを意識し始めていると言えるだろう。導出に至れば、一時金収入による単年度黒字化に加えて、新株予約権ではない研究開発原資を獲得することになり、投資家のセンチメントは好転する。

足元下げ止まりつつある株価動向は、こうしたアップサイドを意識した投資家の存在を推察させる。これから1-2年の同社のパイプラインの進展は今後一層注目度を高めると考えられる。



財務データ

(単位：百万円)

| | 2020/12 | | | | 2021/12 | | | | 2022/12 | | | | 2023/12 | | | |
|-----------------------|---------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| [損益計算書] | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 売上高 | 91 | 82 | 139 | 169 | 246 | 139 | 157 | 171 | 128 | 149 | 156 | 197 | 169 | 189 | 165 | 159 |
| 創業事業 | 1 | 1 | 0 | 1 | 103 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 創業支援事業 | 90 | 82 | 138 | 168 | 143 | 138 | 157 | 171 | 128 | 149 | 156 | 197 | 169 | 189 | 165 | 159 |
| 売上原価 | 61 | 46 | 59 | 70 | 64 | 62 | 78 | 86 | 57 | 69 | 72 | 83 | 73 | 76 | 67 | 68 |
| 売上総利益 | 30 | 36 | 80 | 99 | 182 | 77 | 79 | 84 | 70 | 80 | 84 | 114 | 95 | 112 | 98 | 94 |
| 販売費及び一般管理費 | 456 | 346 | 424 | 303 | 337 | 337 | 515 | 568 | 557 | 373 | 344 | 334 | 321 | 545 | 344 | 394 |
| 研究開発費 | 343 | 266 | 342 | 206 | 216 | 243 | 401 | 451 | 446 | 245 | 225 | 219 | 193 | 408 | 202 | 249 |
| 営業利益 | -426 | -310 | -344 | -204 | -155 | -260 | -436 | -483 | -486 | -292 | -260 | -220 | -225 | -433 | -246 | -301 |
| 営業外収益 | 2 | 0 | 3 | 0 | 7 | 0 | 2 | 4 | 0 | 16 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 営業外費用 | 0 | 2 | 10 | 1 | 1 | 0 | 1 | 6 | 4 | 1 | 1 | -1 | 1 | 1 | 9 | 2 |
| 経常利益 | -425 | -311 | -351 | -205 | -150 | -259 | -434 | -486 | -491 | -278 | -261 | -214 | -227 | -434 | -254 | -302 |
| 特別利益 | | | 0 | 0 | | | | 0 | | | 6 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 特別損失 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| 税引前当期純利益 | -425 | -310 | -351 | -205 | -149 | -247 | -433 | -636 | -491 | -278 | -255 | -214 | -226 | -434 | -254 | -301 |
| 法人税等合計 | 1 | 0 | 1 | 1 | 11 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 当期純利益 | -425 | -311 | -352 | -206 | -161 | -248 | -434 | -637 | -492 | -279 | -257 | -215 | -227 | -435 | -254 | -304 |
| [貸借対照表] | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 流動資産 | 2,309 | 2,805 | 3,316 | 3,249 | 3,294 | 3,088 | 2,675 | 2,216 | 2,005 | 1,792 | 1,955 | 2,092 | 1,964 | 1,566 | 1,633 | 1,629 |
| 現金及び預金 | 1,967 | 2,472 | 2,881 | 2,686 | 2,580 | 2,302 | 2,071 | 1,790 | 1,744 | 1,471 | 1,592 | 1,727 | 1,566 | 1,245 | 1,341 | 1,326 |
| 固定資産 | 247 | 249 | 249 | 246 | 244 | 241 | 274 | 122 | 121 | 128 | 126 | 123 | 120 | 118 | 119 | 122 |
| 有形固定資産 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 6 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| 投資その他の資産 | 237 | 240 | 241 | 238 | 237 | 235 | 269 | 118 | 117 | 124 | 122 | 120 | 118 | 117 | 117 | 121 |
| 資産合計 | 2,556 | 3,054 | 3,566 | 3,495 | 3,537 | 3,329 | 2,950 | 2,339 | 2,126 | 1,920 | 2,081 | 2,215 | 2,085 | 1,685 | 1,753 | 1,751 |
| 流動負債 | 315 | 427 | 378 | 343 | 378 | 428 | 468 | 392 | 419 | 390 | 376 | 370 | 469 | 486 | 4887 | 539 |
| 短期借入金 | 142 | 199 | 199 | 180 | 180 | 190 | 199 | 183 | 183 | 188 | 188 | 184 | 304 | 298 | 316 | 291 |
| 固定負債 | 42 | 42 | 42 | 42 | 42 | 42 | 53 | 53 | 53 | 54 | 54 | 54 | 54 | 54 | 54 | 55 |
| 負債合計 | 357 | 469 | 420 | 385 | 420 | 470 | 522 | 446 | 473 | 444 | 431 | 424 | 523 | 540 | 542 | 594 |
| 純資産合計 | 2,199 | 2,585 | 3,146 | 3,110 | 3,118 | 2,859 | 2,428 | 1,893 | 1,653 | 1,476 | 1,650 | 1,790 | 1,562 | 1,144 | 1,211 | 1,157 |
| 株主資本合計 | 2,199 | 2,585 | 3,146 | 3,110 | 3,118 | 2,859 | 2,428 | 1,857 | 1,621 | 1,445 | 1,631 | 1,777 | 1,549 | 1,132 | 1,189 | 1,139 |
| 資本金 | 6,133 | 846 | 1,303 | 1,388 | 1,471 | 1,471 | 1,472 | 1,515 | 1,642 | 1,695 | 1,916 | 2,097 | 2,097 | 2,106 | 2,262 | 2,388 |
| 資本剰余金 | 6,123 | 2,446 | 2,903 | 2,987 | 3,071 | 3,071 | 3,072 | 3,115 | 3,242 | 3,295 | 3,516 | 3,696 | 3,696 | 3,706 | 3,861 | 3,988 |
| 利益剰余金 | -10,080 | -736 | -1,088 | -1,294 | -1,455 | -1,703 | -2,136 | -2,773 | -3,262 | -3,544 | -3,801 | -4,016 | -4,244 | -4,679 | -4,934 | -5,236 |
| 新株予約権 | 24 | 30 | 28 | 29 | 30 | 19 | 19 | 35 | 31 | 30 | 18 | 13 | 12 | 12 | 22 | 18 |
| 負債純資産合計 | 2,556 | 3,054 | 3,566 | 3,495 | 3,537 | 3,329 | 2,950 | 2,339 | 2,126 | 1,920 | 2,081 | 2,215 | 2,085 | 1,685 | 1,753 | 1,751 |
| [キャッシュ・フロー計算書] | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | -528 | | -1,361 | | -560 | | -1,131 | | -660 | | -1,191 | | -595 | | -1,069 |
| 税引前当期純損失 | | -734 | | -1,290 | | -396 | | -1,466 | | -768 | | -1,237 | | -661 | | -1,215 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | - | | 3 | | - | | -35 | | - | | - | | 0 | | 0 |
| 有価証券の取得 | | - | | - | | - | | - | | - | | - | | - | | - |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | 894 | | 1,944 | | 176 | | 271 | | 341 | | 1,127 | | 113 | | 667 |
| 株式の発行 | | 697 | | 1,769 | | 166 | | 253 | | 336 | | 1,126 | | - | | 555 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | | 366 | | 580 | | -384 | | -895 | | -319 | | -63 | | -481 | | -402 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 2,105 | | 2,105 | | 2,686 | | 2,686 | | 1,790 | | 1,790 | | 1,727 | | 1,727 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | | 2,472 | | 2,686 | | 2,301 | | 1,790 | | 1,471 | | 1,727 | | 1,245 | | 1,326 |

注) キャッシュ・フロー計算書については、2Qは1Q~2Qの累計、4Qについては1Q~4Qの累計の数値となっている。従って、期首残高も、それぞれ前4Qの期首残高となる

出所：同社資料より Omega Investment 作成



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの Recherche によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。